

令和元年度 第2回石川県国民健康保険運営協議会 議事要旨

- 日時： 令和2年2月19日(水) 18時00分～
- 場所： 石川県庁行政庁舎11階1110会議室
- 出席委員： 10名

【被保険者代表】

池島委員、亀田委員、坂下委員

【保険医又は保険薬剤師代表】

千田委員、橋本委員、牧本委員

【公益代表】

石田委員、森河委員

【被用者保険等保険者代表】

田中委員、梨野委員

- 事務局： 北野健康福祉部長、大居医療対策課長
他11名

1. あいさつ (北野健康福祉部長)

2. 議事

① 説明事項

<事務局>

- ・ 資料1により「石川県国民健康保険運営方針に基づく取組状況について」を説明
- ・ 資料2及び3により「令和2年度国民健康保険事業費納付金の算定結果について」を説明
- ・ 資料4により「令和2年度国民健康保険運営協議会スケジュールについて」を説明

② 質疑

・納付金の今後の予想について

<委員>

医療給付費の伸びや高齢化の進展による被保険者数の減少によって、各市町の納付金が少しずつ上がっていると思うが、今後も伸びていくと予想されるのか。それとも、どこかの年代で伸びが縮んでいくと予想されるのか。

<事務局>

一人当たり医療費は毎年伸びていますので、それに応じて納付金も伸びていく傾向にあります。ある程度のところで収まるかという点、なかなか難しいのではないかと思います。特定健診やジェネリックの差額通知など、医療費適正化への取り組みを行うことで、その伸びをできるだけ抑制することが大事だと考えています。

・特定健診および特定保健指導の効果について

<委員>

特定健診や特定保健指導の目標値を達成することは重要だと思うが、それは保険料や医療費の伸びに対して何か効果が上がっているのか。

<事務局>

保険料や医療費の伸びに対して効果を上げることは難しいと思いますが、特定健診や特定保健指導の目指すべきところは、病気になる前の早い段階で発見し、生活習慣等の改善につなげることで、長いスパンで取り組んでいます。

・ジェネリック医薬品の使用割合が増加していることの効果について

<委員>

ジェネリック医薬品の使用割合は毎年上がっているが、一人当たり医療費も毎年上がっている。ジェネリック医薬品を使うことでどのような効果が出ているのか。

<事務局>

薬局における調剤医療費の額は、ここ数年は横ばいに推移しております。調剤医療費のうち、技術料は年々増加しておりますが、薬剤料は年々減少傾向に

あり、ジェネリック医薬品使用割合の増加が、薬剤料の減少に寄与していると考えております。

・重複受診者と頻回受診者の現状について

<委員>

重複受診者と頻回受診者に対しての取り組みを行っていると思いますが、現状として増えているのか減っているのかを知りたい。

<事務局>

令和元年6月診療分では、重複受診者が1,041人と前年同月の1,127人より86人減少、頻回受診者が590人と前年同月の746人から156人減少しています。被保険者数自体が減少しており、月によっての変動もあるので、単純な比較は難しいと考えております。

・予防・健康づくりの取り組みについて

<委員>

医療費の適正化に関して、市町ではどのような予防・健康づくりの取り組みを行っているのか。

<事務局>

金沢市では健康ポイント制度を設けており、健診の受診などでポイントが提供され、景品と交換することができる。同様の取り組みは全市町で実施されており、県としては、引き続き市町に対して先進事例の情報提供などで支援していきたいと考えております。

・市町からの納付金について

<委員>

資料3に市町からの納付金として294億円と記載があるが、歳入が294億円にならない場合はどのように対処するのか。

<事務局>

納付総額は294億円を必ず納めて頂くこととなります。各市町が納付金をどのように集めるかは、市町それぞれで決定します。保険料以外に法定外繰入があったり、基金があったりというのは、市町で決めて頂きます。ただ、市町が

県に納める金額は、県が示した金額を必ず納めて頂くことになっています。

・一人当たり納付金の減少した3市について

<委員>

輪島市、能美市、野々市市の3市において、一人当たり納付金が減少しているが、どのような理由によるのか。

<事務局>

納付金の算定においては、各市町の医療費水準や所得水準を考慮しますが、被保険者数の増減とも関連してきます。下がっている3市の減少率は非常に小さいので、単年度の動きのバラつきではないかと思っています。申し訳ありませんが、個別市町の詳細な分析までは申し上げられない状況です。

3. 閉会